

園地条件の違いとウメの果実肥大

1. はじめに

ウメの高位安定生産技術を確立するために、南部町及び南部川村に調査園を設置し、2001年からウメ樹「南高」の樹体成長が園地条件（地域、土壌など）に影響されないか調査しています。ここでは2001年のウメの果実肥大について紹介します。

2. 調査方法

調査園として土壌の異なる10園を選びました。黄色土3園（晩稲、東吉田、山内）灰色低地土（水田転換園）2園（西本庄、共和）、岩屑土3園（西岩代P、東岩代P、西本庄P）は、海岸から約4kmまでに位置し、褐色森林土2園（清川、高城）は、海岸から9km以上離れた山間部に位置しています。これらの園地において、それぞれ10～15年生3樹を選び、調査樹としました（図1）。



図1 調査園設置地点

2001年は調査樹の満開期、着花数、果実肥大を調査しました。着花数については、直径約2cmの側枝を選び、そこに着生している花数を着花数としました。4月16日、5月11日、6月8日に樹冠外周部の果実15果の縦径、横径、側径を計測し、楕

円体として果実体積を算出しました。また、調査した枝に6月8日に着生する果実数から着果率（果実数/着花数×100）を求めました。

3. 調査結果

満開期は、黄色土園が最も早く2月17日、次いで灰色低地土、岩屑土園が2月20日、褐色森林土園が2月27日でした（表1）。

表1 各園地の満開期（2001年）

調査園地	土壌群	満開期
晩稲	黄色土	2月17日
東吉田		2月17日
山内		2月17日
西本庄	灰色低地土 (水田転換園)	2月20日
共和		2月20日
西本庄P	岩屑土 (造成園)	2月20日
西岩代P		2月20日
東岩代P		2月20日
清川	褐色森林土	2月27日
高城		2月27日

直径約2cmの枝の着花数は、523～853で、西本庄の灰色低地土園が他の園より多い傾向がみられました（図2）。

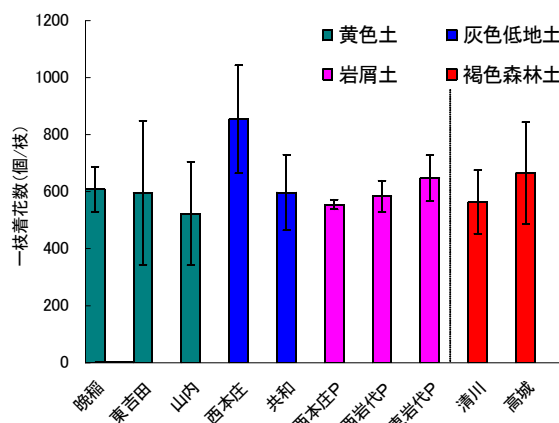


図2 調査園の着花数（2001年）

4月以降の果実肥大は、岩屑土園が他の園より早い傾向がみられました。灰色低地土園は、6月の着果率が高く、他の園に比べて果実の肥大が遅い傾向がみられました。黄色土園と褐色森林土園における果実の肥大は岩屑土園と灰色低地土園の間となっていました(図3、4)。

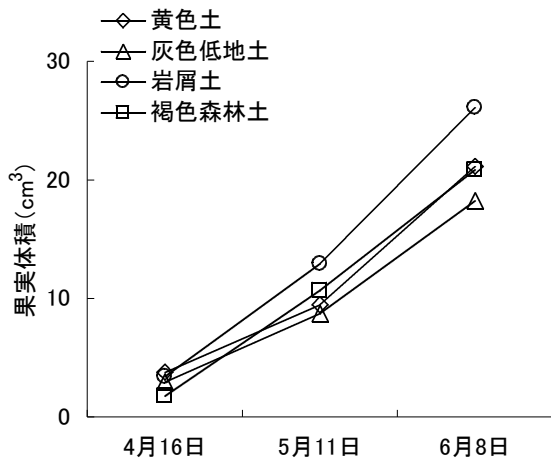


図3 果実体積の推移 (2001年)

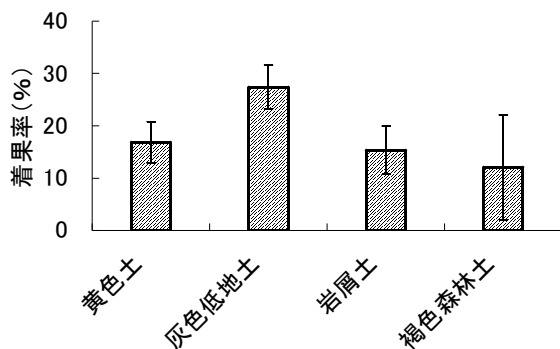


図4 土壌群別の着果率 (2001年6月8日)

6月8日の果実体積と着果数との間には土壌間で差がみられました。灰色低地土園では着果数が多く、果実体積が小さくなっていました。着果数が灰色低地土園より少

ない黄色土園、褐色森林土園の果実体積は、灰色低地土園とほぼ同じでした。岩屑土園では、着果数の園地間差が大きく、着果数が多いうえに果実体積も大きい園地がみられました(図5)。

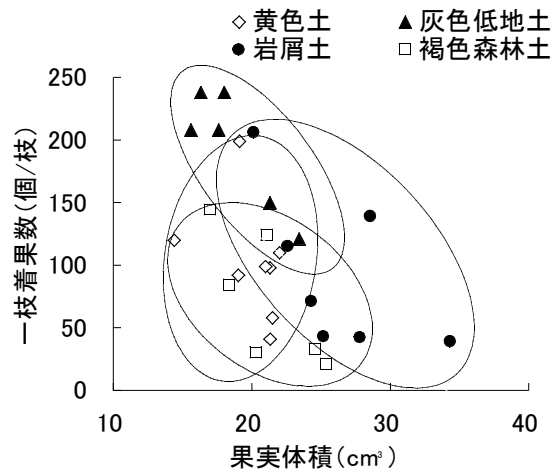


図5 果実体積と着果数 (2001年6月8日)

4. おわりに

ウメ果実の肥大には、地域や土壌による違いがみられました。この要因については、今後気温等の調査を加えて継続して検討していきたいと考えています。

(うめ部 北原 伸浩)